

海外地域医療研修Ⅱ

Overseas Training / Practice of Community - oriented Medicine Ⅱ

科目責任者：大 平 修 二（国際環境衛生室）

I. 前文

すべての人が平等な医療を受けられるためにも、地域医療の充実は必要不可欠です。しかしながら、近年、医師の偏在などにより地域医療の体制や機能が問題視されています。そこで本科目では、フィリピンにおける海外研修を通して、国際的に見た地域医療の現状や問題点を正しく理解し、今後の日本における地域医療のあり方を考え、学生それぞれが、その実践に必要な知識・能力を身に付けられるよう指導します。同時に、国際的視野を持った医療従事者の育成の一助になればと考えます。本科目を通して、患者やその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師として活躍できる素養を学修することを期待します。研修生は、学業成績全般および試験（医学英語・面接他）にて選考します。評価は、研修前・研修中・研修後の全般にわたって行います。尚、本研修費用については大学よりの補助がありますが、一部は研修生の負担となります。

II. 受入可能人数

8名位まで（海外地域医療研修Ⅰと合わせて）

III. 担当教員

名誉客員教授	Nina Gloriani	（国立フィリピン大学）
名誉客員教授	Jusie Lydia Siega-Sur	（国立フィリピン大学）
現地指導教員	Romeo Quizon	（国立フィリピン大学）
特 任 教 授	Lydia Leonardo	（国立フィリピン大学）
現地指導教員	Leda Hernandez	（フィリピン共和国保健省）
現地指導教員	Winston Palasi	（フィリピン共和国保健省）
現地指導教員	Normando Legaspi	（フィリピン共和国東ミンドロ州保健局）
現地指導教員	Eunice Ilagan	（フィリピン共和国保健省）
現地指導教員	Melinda Corazon Goco	（フィリピン共和国東ミンドロ州Ma Estrella総合病院）
現地指導教員	Bayani Blas	（元フィリピン共和国保健省）
現地指導教員	Gerundio Portillo	（元フィリピン共和国保健省）
現地指導教員	Ignacio Lipayon	（元フィリピン共和国保健省）
現地指導教員	Nerie C. AVECILLA	（フィリピン共和国東ミンドロ州Ma Estrella総合病院）
教 授	大 平 修 二	（国際協力支援センター 国際環境衛生室） Shuji Ohhira
教 員	千 種 雄 一	（特任教授） Yuichi Chigusa
講 師	William Hassett	（基本医学 語学・人文教育部門）
助 教	高 岡 宣 子	（国際協力支援センター 国際交流支援室） Nobuko Takaoka
特 任 教 授	Sumana Barua	（星槎大学 卓越教授）
特 任 教 授	飯 島 渉	（青山学院大学文学部史学科教授） Wataru Iijima
非常勤講師	色 平 哲 郎	（国際協力支援センター 国際交流支援室） Tetsuro Irohira
指 導 助 手	アビド ハミド	（医学部 小児科学／国際協力支援センター 国際交流支援室） Abid Hamid

IV. 学習内容

国内外における地域医療（Community-oriented Medicine/Community-based Medicine）について実地研修等を通して学び、将来、国際的視野に立った医療人となるための基礎的な知識・技能を修得する。

V. 学修の到達目標

- 1) 国内外の地域医療の概要を説明できる。
- 2) 国内外の地域医療従事者養成機関の概要を説明できる。
- 3) 国際保健の概要を説明できる。
- 4) 日本政府による国際医療協力の概要を説明できる。
- 5) 途上国と我が国における感染症の概要を説明できる。
- 6) 途上国と我が国における生活環境衛生の概要を説明できる。

上記の学修目標達成のため、以下の演習を行う。

- ・医学英語I～V
- ・英語表現演習I～V
- ・フィリピンの医療
- ・フィリピンの医療職養成制度
- ・フィリピンの保健医療制度
- ・感染症学（住血吸虫症）
- ・感染症学（糸状虫症・狂犬病・デング熱・レプトスピラ症）
- ・環境調査（大気）
- ・環境調査（水質）
- ・英文レポート作成演習I～V
- ・報告書作成演習I～X
- ・研修報告発表演習I～X

VI. 成績評価の方法・基準

海外研修事前学習（講義・演習・実習）での学習意欲、研修成果発表や報告書作成における寄与度などから、総合的に評価する。海外研修中の研修態度・基本的な生活態度も評価に含まれます。

VII. 使用する教材・資料など

- 1) 参考図書・資料は随時指示する。担当教員より配布される資料
- 2) AV資料（指導教員より配布する）
- ・Snail Fever (Part 1) /Snail Fever Now (Part 2)
- ・NHK アジアン スマイル めざせ！ 村の赤ひげ先生
- ・NHK ヤマナシ クエスト 地方病を撲滅せよ ～山梨県民不屈の100年戦争～

VIII. 質問への対応方法

- 1) 質問は随時受け付けます。
- 2) 海外研修についての質問は、科目責任者（s-ohhira@dokkyomed.ac.jp）が中心となり受け付けます。講義・演習・実習等については夫々の担当教員に直接質問してもよいですが、アポイントを取ることをお勧めします。

IX. 求められる事前学習、事後学習*（ ）内は所要時間の目安

事前学習：フィリピンにおける地域医療の現状と地域特異の感染症などについて自分なりに事前学習し、研修に参加した時に最も学習したい点について導き出しておくことを求めます。（30分）

事後学習：医学会での報告や報告書の作成を通じて、研修の詳細な復習を行っていきます。

X. コアカリ記号・番号

A-7-2) 国際医療への貢献, B-1-7) 地域医療・地域保健, B-1-9) 国際保健, E-2-4) - (3) 真菌感染症

と寄生虫症

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

報告書等の作成段階で、検討会を行い訂正や添削を重ねてフィードバックをしていきます。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○